

平成24年度 事務事業評価シート（評価対象：平成23年度）
 兼 第6次行政改革大綱案実施計画改革項目 検討調書

No.

【1. 事業の概要】

基本施策名	521	未来に向けた農業の再生・振興			担当部局	農林部
施策名	521-02	消費者や市場と結びついた産地づくり			担当課	農業政策課
事業番号	6107	事業開始年度	平成	22	年度	作成者（連絡先）
事業名	畜産振興補助金（サフォーク肉価格安定対策事業補助金）					
事業内容	どうしてこの事業が必要なのか（原因、ニーズ） 飼料価格が高騰し、畜産農家の経営を圧迫しているため 畜産農家が高齢化しているため、労力軽減が必要である。 放牧の推進により、畜産の経営体質強化が必要である。					
	誰、何が対象なのか（対象） 市内畜産農家					
	どのような手段を用いるのか（方法） めん羊のと畜料、皮片付・保管料を補助する。					
	どのような成果を実現したいのか（成果、効果） サフォーク肉の価格の安定を図ることで、めん羊経営の安定的継続を図る					
根拠法令等	なし					

【2. 事業のコスト】

年度		21年度決算	22年度決算	23年度決算	24年度予算	特記事項
優先施策の該当						畜産振興補助金の内、価格安定対策事業の補助金額についてのみ記載。
年間経費の推移	①事業費 (千円)	0	1,716,770	1,780,013	1,745,610	
	補助金	—	1,716,770	1,780,013	1,745,610	
	旅費					
	その他					
	②人件費概算 (千円)	0	0	0	0	
	正規職員 (人)					
	嘱託職員 (人)					
	臨時職員 (人)					
	③事業費計 ①+② (千円)	0	1,716,770	1,780,013	1,745,610	
	④特定財源 (千円)	0	0	0	0	
国・県支出金						
市債						
その他						
⑤市負担額 ③-④ (千円)	0	1,716,770	1,780,013	1,745,610		

【3. 事業の成果】 評価ランク A:目標を上回る B:概ね目標どおり C:目標を下回る D:目標を大きく下回る

項目	単位	21年度実績		22年度実績		23年度実績		24年度見込	
補助頭数	頭	目標	—	目標	150	目標	150	目標	155
		実績	—	実績	160	実績	167		
飼養頭数	頭	目標	—	目標	—	目標	—	目標	—
		実績	462	実績	476	実績	462		
達成状況の評価	達成状況、評価理由の説明								
A	口蹄疫、放射能等いろいろな要因がある中でおおむね目標を達成している。								
	目標を上回る								

基本施策名	521	未来に向けた農業の再生・振興	No.	
施策名	521-02	消費者や市場と結びつけた産地づくり	担当部局	農林部
事業名	畜産振興補助金（サフォーク肉価格安定対策事業補助金）		担当課	農業政策課

【4. 事業の検証】

視 点		評 価	理 由
事業の必要性	市民ニーズや社会経済状況の変化などにより必要性は変化しているか	A 増加している B あまり変化していない C 低下している	B 飼料費用の高騰など畜産を取り巻く情勢はきびしいため補助が必要である
役割の妥当性	市の関与について、見直す余地はあるか	A ない B 現在はない C ある	A 畜産農家への援助は市のほかにはないため
事業の有効性	目標とする成果の達成に向けて改善、見直しを行う必要があるか	A ない B 一部ある C 大幅にある	B 引き続き畜産農家への援助が必要であるが、めん羊に対する補助金について一部見直す必要がある。
方法の効率性	更なる効率化に向けて改善、見直しを行う必要があるか	A ない B 一部ある C 大幅にある	B めん羊に対する補助金について一部見直す必要がある。

【5. 今後の課題・方針】

課題	<p>飼料価格の高騰、高齢化による担い手の不足等、畜産農家を取り巻く環境が非常に厳しいため、畜産振興に係る補助施策を実施してきた。</p> <p>特に、信州新町肉めん羊組合に交付しているサフォーク肉価格安定対策事業補助金は、合併協議のなかで3年を目途に見直すこととなっている。</p> <p>しかしながら、現状で当該補助金を廃止すると飼養農家の廃業などにより、昭和初期から続いてきた「新町のジンギスカン」が途絶えてしまうことが、危惧される。</p>	
方針	<p>今後の方針</p> <p>継続</p>	<p>方針の理由、具体的な取組内容</p> <p>めん羊は草地が荒廃してしまうほど、非常に食性が強い動物である。この特徴を活かして、25年度からめん羊を緩衝帯エリアや耕作放棄地に放牧し、野生鳥獣の出没や荒廃地化を抑制するための、モデル事業実施する。このモデル事業を3ヵ年実施し、課題・問題点を洗い出し本格実施について検討する。</p>

【6. 改革の成果】

改革の目指す成果	目標（完了）
<ul style="list-style-type: none"> 放牧による飼料購入経費の削減や新規の飼育農家の確保。 めん羊生産組合のめん羊リースによる収入増加。 農地等の草刈など農家の労働力の省力化。 耕作放棄地の解消及び野生鳥獣被害の防止。 放牧を可能な限り「見える場所」で実施することによる、誘客及び販路の拡大。 	<p>市からの補助金に依存せずに経営が成り立つめん羊肉の生産体制</p>